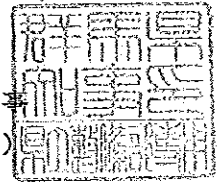


道企第906-190号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

群馬県知事
(道路企画管理課)



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

日頃から群馬県の発展に格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記の件について、別添のとおり取りまとめましたので、回答いたします。

1. もっと経済に活力を

首都圏ぐんまとして、恵まれた立地条件を活かし、交通や生活の基盤をさらに整備するために、広域的な観点でインフラを整備する必要があると考えており、北関東自動車道、上武国道、広域幹線道路、上信自動車道を軸に、高速移動時代に対応しうる地域間交通網を積極的に整備する必要がある。

2. 群馬がはばたくための7つの交通軸構想

具体的には、高速道路網を補完する7つの交通軸（県央軸、東毛軸、西毛軸、吾妻軸、三国軸、尾瀬軸、渡良瀬軸）の機能を強化すべく、必要な整備・管理の充実を図ることとしている。

また、県民の生活環境を守るために、渋滞、交通事故、防災等の対策に資する道路整備も積極的に推進する。

3. 財源の確保

これらの必要な道路整備を計画的に行っていくには、安定的な財源の確保が必要不可欠であり、国においては、道路特定財源の一般財源化がなされても、これまで以上の額を「地方枠」として確保する等、地方の道路整備予算が確保できる仕組みを構築していただきたい。

また、地方の道路整備が計画的に推進できるよう「地方道路整備臨時交付金制度」を存続・拡充するとともに、地方の財政負担を軽減する地方道路整備臨時貸付金制度を継続していただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式②

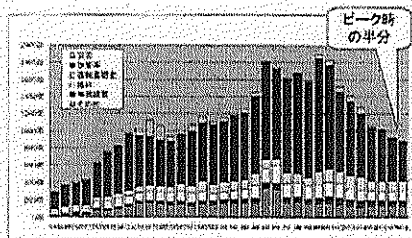
群馬県

○現状

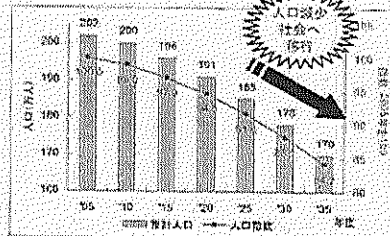
【社会的背景】

- ・現在の県土整備部の予算は、最も多かった平成10年度の半分まで減少。
- ・地方分権、財政の危機：平成18年の県債残高は9592億円で、県民一人あたり約50万円の負担。一方、今後高度成長期のインフラ更新が必要。
- ・少子高齢化が進んでいて、群馬県人口の推計では、2035年に2005年比で16%減少、特に中山間部での著しい減少が予想されている。また、2035年には、3人に1人が65歳以上の高齢者。
- ・地球温暖化が進行し、世界のCO₂濃度は20世紀に35%上昇、日本の平均気温も1℃上昇。京都議定書での約束期間で1990年比6%削減が必要。

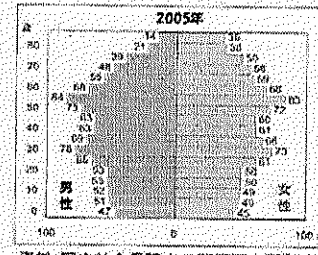
【県土整備部関連事業の投資額推移（一般会計決算額）】



【群馬県の将来人口】



資料：国立社会保障人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」より作成



資料：国立社会保障人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」より作成

○課題

財政難の中での効率的な事業執行

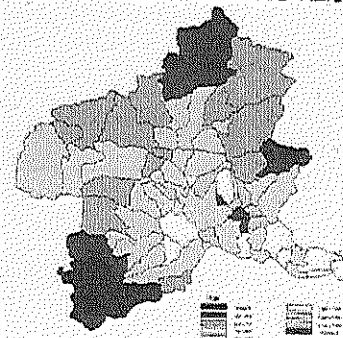
交通弱者の対策

環境への配慮

【地域の現状】

- ・人口、産業が集積する中部・西部地域、大きな工業力を有する東部地域、人口は少ないが農業等の健闘が目立つ吾妻・利根沼田地域。
- ・群馬県では、比較的産業に恵まれている都市部と、自然・観光資源に恵まれているが、過疎化が進行する山間部が併存しているが、都市問題と過疎問題を同時に有している。
- ・群馬県内には、中核的な医療施設に30分で行けない市町村が38市町村のうち12ある。
- ・都市部では産業基盤を生かし、地域間競争に勝つための基盤整備が必要。山間部では農業、観光を支援する基盤整備が必要。

【2030年将来人口指数
(2000年を100としたときの値)】



地域間の連絡強化

地域の課題に応じる道路整備

救急搬送支援のアクセス向上

産業を支援する幹線道路ネットワークの強化

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

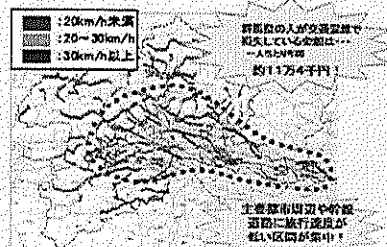
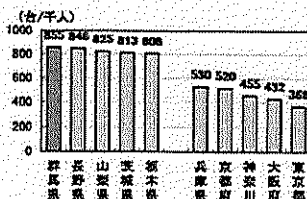
様式②

群馬県

○現状

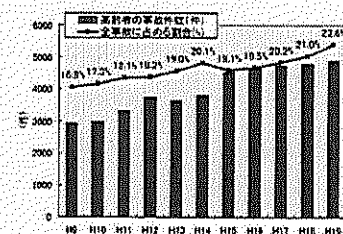
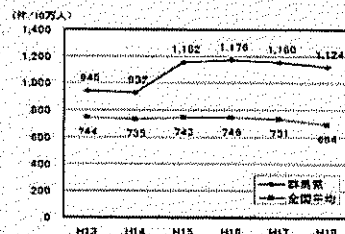
【道路交通の現状】

- ・自動車交通への依存：自動車保有台数が、856台/千人と全国1位（H18）。交通手段に占める道路交通への依存度が極めて高い。また、主要都市周辺や幹線道路では、朝・夕の交通混雑から渋滞による経済損失が甚大である。



県管理道路の混雑状況

- ・人口千人あたりの歩行者事故件数は、0.27件/千人(全国ワースト6位)で、県民アンケートでも安全な歩道整備が重要だが満足していないという割合が非常に高い状況である。
- ・非常に高い交通事故発生率：交通事故死者数は減少傾向にあるものの、交通事故発生件数は1,124件/年で、全国平均の約1.6倍（H18）。また、高齢化に伴い、高齢者の関係する交通事故が増加中。



- ・想定を越える自然災害：平成19年に台風19号による甚大な被害が発生、全国的にも、想定外の局地的集中豪雨の増加により、浸水被害や土砂災害が発生。



被害状況	道路状況	被害状況	被害状況
孤立人数	226世帯、489人		
孤立期間	H18.8.6～H18.8.13		

台風19号による通行規制 (H18.9)

国管理	: 1路線 3区間
県管理	: 77路線 106区間
高速道路	: 1区間 (富岡～下仁田間)

群馬県消防防災資料科

○課題

都市、幹線道路の交通渋滞

歩行者等の交通弱者の安全確保

交通事故対策

災害対応力の強化
(孤立対策・代替路確保)

●「はばたけ群馬・県土整備プラン」

～「はばたけ群馬・県土整備プラン」とは～

今後、群馬が未来に向けて大きくはばたいていくために、これからの10年間「ぐんまの社会資本整備はどのようなやり方で、何を整備していけばよいか」という県の指針を平成20年3月に策定した。

Ⅰ策定の背景(社会資本整備などとりまく状況)

社会情勢の大きな変化

- ・人口減少時代への突入
- ・少子・超高齢化時代の到来 など

社会・自然環境の状況

- ・拡散する市街地
- ・豊かな自然と観光資源
- ・自動車への過度依存 など

プラスの要因

- ・北関東自動車道、圏央道の開通
- ・東京圏との近接性(東京都心の100km圏内) など

Ⅱ社会資本整備の視点からみた群馬の将来像

社会資本整備をとりまく状況の中、群馬が目指す方向を示します。

自然と共生し、未来に向けて、持続的にはばたける地域

Ⅲ群馬がはばたくために取り組み方を変えます

「群馬の将来像」を実現するために、取り組み方を変え、取り組むべきことを明確にします。

- ① 対話と協調
- ② 選択した箇所に集中投資
- ③ 地域の課題解決を重視
- ④ 地域の魅力向上に投資
- ⑤ 総合的な視点からコストダウン
- ⑥ ソフトとハードの両面からの取り組み
- ⑦ 公共事業の実施方法のさらなる改善
- ⑧ 効率的な維持管理

Ⅳ群馬がはばたくために取り組むべきこと

将来像を実現するための目的

4つの手段で目的を達成します

企業・観光客を誘致する

⇒

示気

「もっと、県土に活力を」

生活環境を守る

⇒

安全

「もっと、暮らしに安心・安全を」

地域間競争に打ち勝つ

⇒

魅力

「もっと、県土に魅力を」

環境負荷を減らす

⇒

環境

「もっと、良好な環境を」

Ⅴおわりに

「もっと、地域に活力を」～地域プラン～ [別冊]

地域独自の課題を解決するために、地域の個性をいかすために地域ごとに「地域プラン」を、県民参画で策定します。

はばたけ群馬・県土整備プランを実効性のあるものにするために

- ・社会情勢の変化に対応するために、おおむね5年ごとに更新します。
- ・「取り組み方」と「取り組むべきこと」が着実に実行されているか、毎年「点検」していきます。

②-2 地域の目指すべき将来像

群馬県

●「群馬の道づくりの方針」

〔概要〕群馬県では、「はばたけ群馬県土整備プラン」における道路整備等を実現させるために、「群馬の道づくりの方針」を定め、安全、安心で暮らしを豊かにする道路をめざし、以下に示す道づくりの3つの方針を設定して具体的な政策を展開している。

〔取り組み方〕5つの視点 ●既存施設を工夫しながら有効に活用 ●優先度の高い箇所からスピーディに
●管理の簡素化と計画的な補修 ●情報技術を活用する ●総合的な視点からのコストダウン

①地域の自立と個性を守る道路整備

〔テーマ〕 県土に活力	政策事例
【実現1】 地域間の連携を強化する 【実現2】 観光を振興する 【実現3】 広域物流等を支援する	高速交通網を補完する幹線道路整備 ぐんまがはばたくための7つの交通軸構想

②県民の生活を守り、安心した暮らしを支援する道路整備

〔テーマ〕 安全・安心	政策事例
【実現1】 交通弱者の安全を守る 【実現2】 交通事故を減らす 【実現3】 救急医療を支援する 【実現4】 災害に強い道路をつくる	緊急通学路整備（歩道新設） 事故危険箇所の安全対策 救急輸送支援のアクセス向上 緊急支援ルート of 危険箇所対策

③環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備

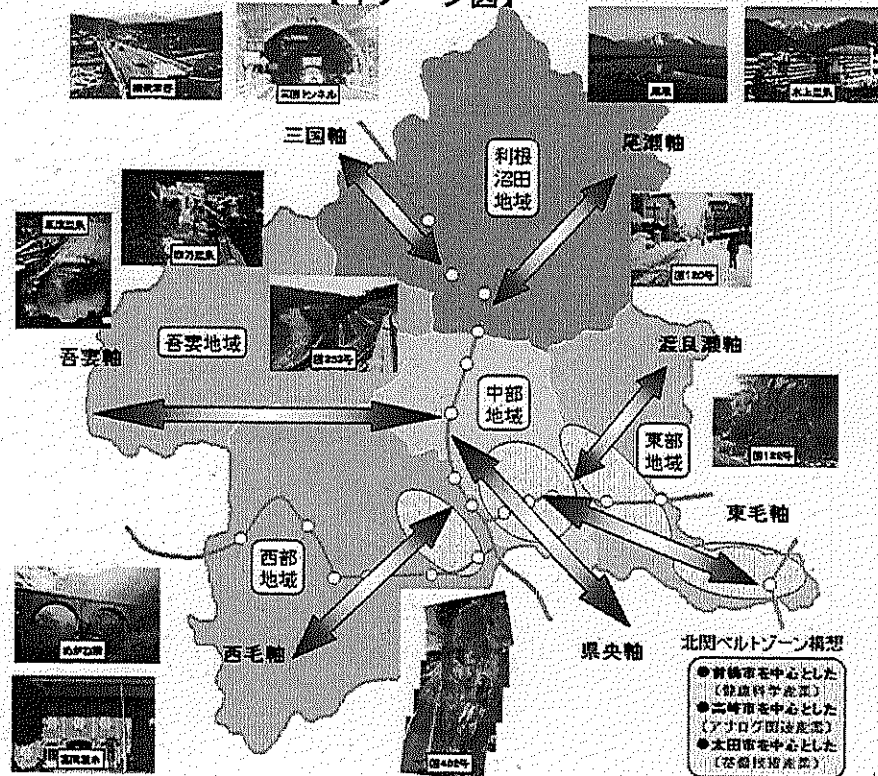
〔テーマ〕 魅力・環境	政策事例
【実現1】 渋滞を緩和する 【実現2】 環境に配慮する 【実現3】 沿道環境を創造する	交通混雑箇所の渋滞解消 自転車利用の促進 電柱のない街づくり、道路景観すっきり計画

●「ぐんまがはばたくための7つの交通軸構想」

〔概要〕「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」とは、各地域の自立促進と活性化を支援し、持続的にはばたける地域づくりを図るため、県内の高速道路網を補完する7つの交通軸を強化するというものである。

〔狙い〕この「7つの交通軸」により、地域連携（時間短縮）を強化するとともに、それぞれの軸に求められる機能（産業・観光・安全安心）を向上させることを目指している。

【イメージ図】



対象路線	
県 央 軸	国道17号上武道路・国道17号等、JR
東 毛 軸	東毛広幹道・国道50号等、上毛電鉄・東武鉄道
西 毛 軸	西毛広幹道・国道254号・国道462号等、上信電鉄・JR信越線
吾 妻 軸	上信自動車道・国道145号等、JR吾妻線
三 国 軸	国道17号等、JR上越線
尾 瀬 軸	国道120号等
渡良瀬軸	国道122号・(主)大間々世良田線パイパス等、わたらせ渓谷鐵道

③道路施策の重点事項 代表事例、期待する効果や評価等

群馬県

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
県土に活力 実現1 地域間の連携を強化する	実現1 ・ 地域高規格道路を重点的に整備 国道17号上武道路・前橋渋川バイパス（太田市～渋川市） 上信自動車道 （渋川市～長野原町） ・ 高速道路を補完し、県内の拠点間を結ぶ主要幹線道路の整備を重点的に整備 東毛広域幹線道路（高崎市～板倉町） 西毛広域幹線道路（前橋市～富岡市） 主要地方道大間々世良田線バイパス（みどり市）	・ 関越自動車道を補完し、活力ある地域づくりを支援するため、高速度のサービスを提供する道路で基幹病院への移送時間の短縮や産業の集積に大きな効果があります。 ・ 国道17号上武道路、東北自動車道を連結するとともに、県央と東毛の各都市の地域間相互の交流連携強化、物流の効率化及び渋滞解消など地域の発展に果たす役割は極めて大きいものがあり、最重要路線として整備を進めている。 〈東毛広域幹線道路の効果〉 経済波及効果 約3千億円 重症患者等の円滑な輸送 2万人増 年間のCO₂削減 2万7千トン	

③道路施策の重点事項 代表事例、期待する効果や評価等

群馬県

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
実現2 観光を支援する	実現2 ・地域高規格道路を重点的に整備 上信自動車道 (渋川市～長野原町) ・尾瀬国立公園や世界遺産登録を目指している富岡製糸場を生かす道路整備を重点的に整備 国道254号甘楽吉井バイパス (甘楽町～吉井町) ほか	・産業・経済。観光で観光客の増加や新鮮野菜の配達エリアの拡大等に大きく寄与する。 〈上信自動車道の整備効果〉 観光客 約300万人→約345万人 嬭恋高原野菜を即日食べられる人口 約1,200万人→約1,800万人 ・「世界遺産登録」を目指している富岡製糸場など点在している観光資源間のアクセス強化を図り、観光客など交流人口の増加を図る。	
実現3 広域物流等を支援する	実現3 ・高速道路を更に活用するための道路整備を重点的に整備 北関東自動車道の全線開通 アクセス道路の整備促進 駒寄スマートIC (吉岡町) 高崎スマートIC (高崎市、玉村町) ほか	県内主要拠点や工業・流通団地からの高速道路へのアクセスが向上し、産業集積の促進と地域間競争力が向上すると共に、県民の高速道路利便性も向上する。	

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項・代表事例、期待する効果や評価等

群馬県

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
安全・安心 実現1 交通弱者の安全を守る 実現2 交通事故を減らす	実現1 ・小中学校周辺1km以内の通学路を重点的に整備 〈歩道整備〉 主要地方道藤岡大胡線（藤岡市） 主要地方道平川横塚線（川場村）ほか 実現2 ・事故危険箇所を重点的に整備 〈交差点改良〉 国道122号（桐生市） 主要地方道前橋安中富岡線（高崎市）ほか	・小中学校は地域の中心にあり、その周辺の通学路を整備することは子供はもとより、高齢者にも優しい道となる。 ・通学路の歩道整備率 64% → 80%(H29) ・5年間で120校に通う生徒の安全性が向上します ・レッドゾーン・イエローゾーン等になる事故危険箇所から抽出された事故危険箇所を対策することによって、死傷事故率を大きく減少させることができる。 ・事故危険箇所の死傷事故率3割減少 565.4→395.8件/億台・km	

③道路施策の重点事項 代表事例、期待する効果や評価等

群馬県

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
実現3 緊急医療を支援する	実現3 ・ 地域の中核的な医療施設への所要時間を短縮できる道路整備を重点的に整備 国道120号椎坂バイパス（沼田市） ほか	・ 群馬県内の各市町村から地域の中核的な医療施設への所要時間を短くして、安心して暮らせる地域を目指します。 〈椎坂バイパスの整備効果〉 ・ 54分 → 43分(11分短縮)	
実現4 災害に強い道路をつくる	実現4 ・ 落石や法面崩壊の危険箇所のうち、緊急支援ルート上の箇所を重点的に整備 国道17号綾戸バイパス （渋川市～沼田市） 国道17号三国防災（みなかみ町） 国道122号（みどり市） 国道353号村上工区（渋川市） 国道462号（藤岡市、神流町） ほか	・ 現道が危険な場合に危険箇所を回避する道路整備を推進します ・ 太平洋と日本海を結ぶ交通の要衝に残っている狭小トンネルを解消します。 ・ 緊急支援ルートの中で要対策箇所を対策することにより、孤立となる可能性を減少します。 ・ 202箇所 → 101箇所(H29)	

③道路施策の重点事項' 代表事例、期待する効果や評価等

群馬県

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
魅力・環境 実現1 渋滞を緩和する 実現2 環境に配慮する	実現1 ・通勤時の交差点や踏切等での渋滞箇所を重点的に整備 国道50号前橋笠懸道路 (前橋市～みどり市) 伊勢崎駅付近連続立体交差事業 (伊勢崎市) 国道122号昭和橋(明和町)ほか 実現2 ・自転車利用促進に向けて自転車走行帯の着色による分離や自転車道の整備をネットワークとなるように重点的に整備 一般県道松井田中宿線(安中市)ほか	・渋滞の原因となる交差点の改良や踏切の削減により、渋滞箇所を削減します。 ・20箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図ります。 ・自動車利用者を自転車利用へ転換を図り自動車交通が削減します。 ・歩行者と自転車の接触事故の削減により、自転車利用者の安全度が増します。 ・自転車走行空間が区分された道路の割合 74%→91%(H29)	JR両毛線 2.2km 東武鉄道 2.3km 事業期間 H12～H26

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項' 代表事例、期待する効果や評価等

群馬県

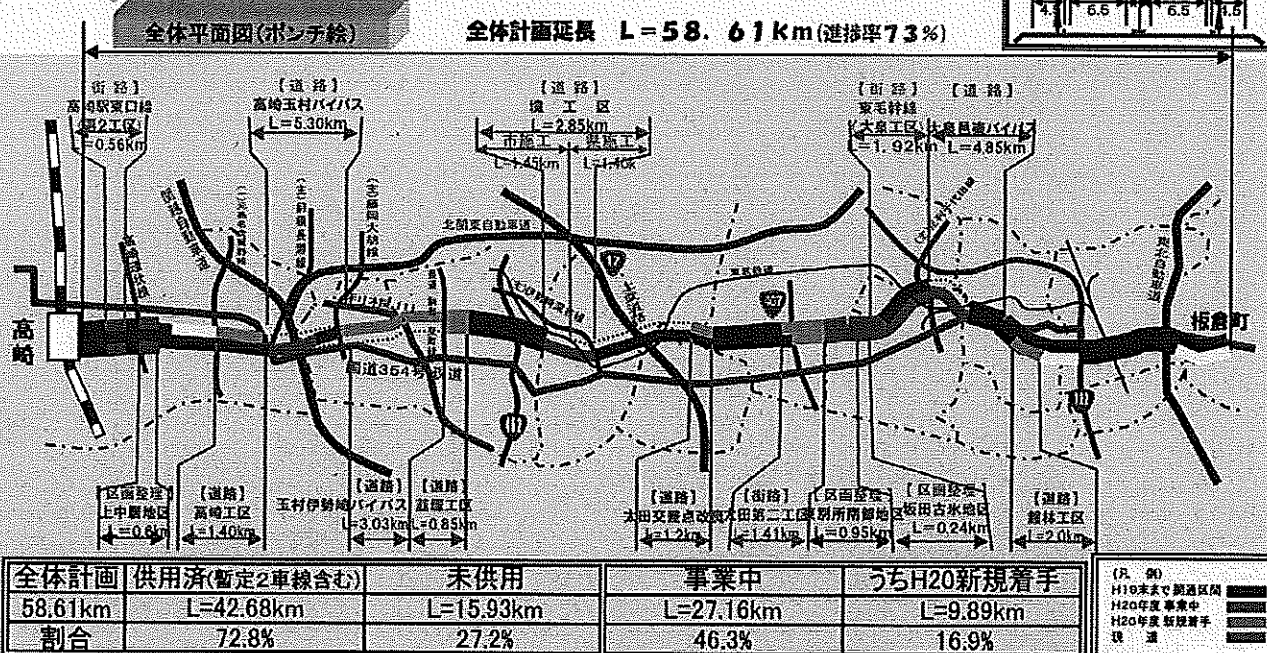
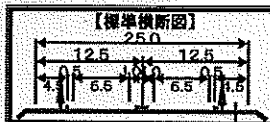
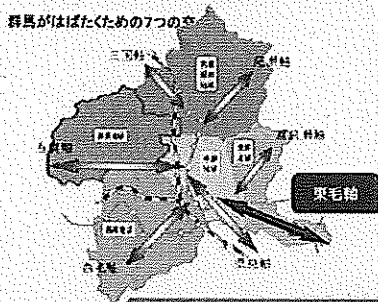
○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
実現③ 沿道景観を創造する	実現③ ・災害時にも備えて、電柱や電線のないまちづくりを目指します。 国道407号（太田市） 主要地方道佐野行田線（館林市） ほか ・日本風景街道の取組を支援します。 国道145号、国道146号、 国道292号、主要地方道草津嬬恋線 （長野原町、嬬恋村、草津町、六合村）	・まちなかの景観がすっきりするとともに災害時にも電柱の倒壊等を防ぐ事ができます。 市街地幹線道路の無電柱化率 9%→15% ・新たな道路の利活用を促進し、地域振興や観光振興が図れ、地域の景観改善も図れます。	

県土に活力！ 首都圏への道路の東西連結強化 ～広域物流等を支援・地域間の連携を強化～

位置図

東毛広域幹線道路の整備推進 <H27年度完成目標>

- 「群馬がはばたくための7つの交通軸」の東毛軸の主軸
- 県央と東毛の各都市の交流・連携の強化
- 渋滞緩和や物流の効率化などにより、沿線の産業活性化を促進



●経済波及効果(全線供用後40年間)！

- ①製造品出荷額2,256億円、②商業販売額736億円、③農業産出額35億円の経済波及効果が期待されます。

約3千億円の経済効果！

●医療福祉の向上！

国立病院機構高崎病院・前橋赤十字病院へのアクセス時間30分カバー人口が約91万人に増加します。

重症患者等の円滑な搬送
2万人増！

●環境改善！

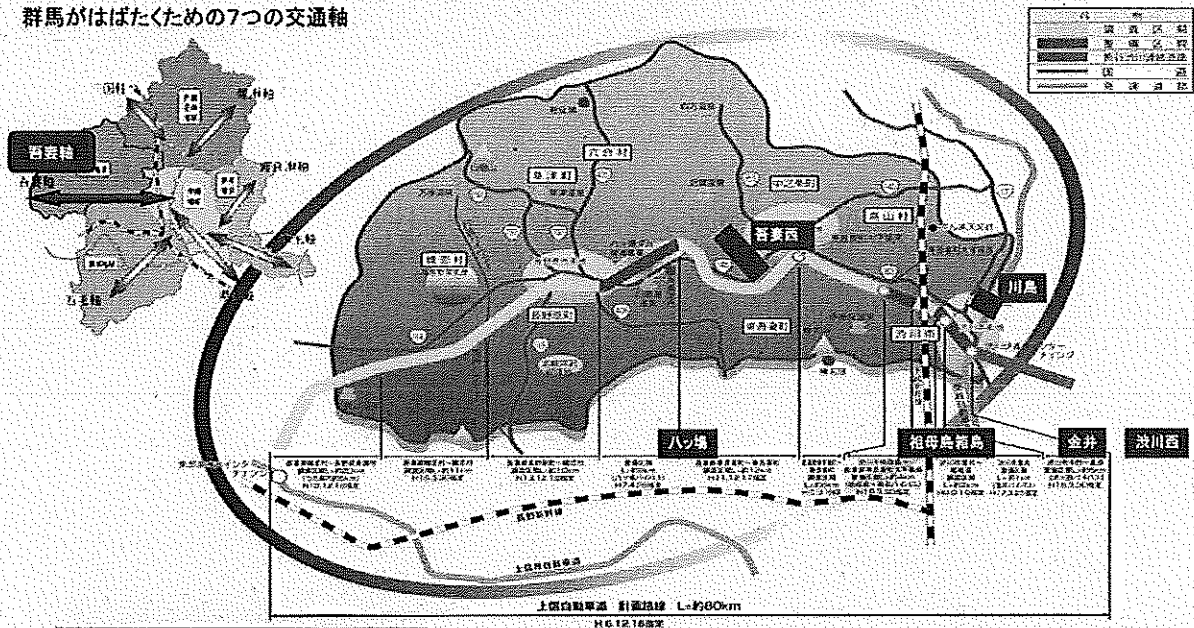
- ①窒素酸化物が年間55ト削減 ②二酸化炭素が年間2万7千ト削減
③浮遊粒子状物質が年間5ト削減され、住みよいまちを形成します。

県土に活力！ 地域の自立と個性を守る道路整備 ～観光を振興する・広域物流を支援する～

上信自動車道の整備促進

- 「群馬はばたくための7つの交通軸」の吾妻軸の主軸
- 吾妻地域の産業、経済、観光に必要な地元悲願の道路
- アクセス性の向上により草津温泉、嬭恋高原キャベツの身近さを全国に発信

群馬がはばたくための7つの交通軸



吾妻を代表する草津温泉(湯畑)

- 全体区間：渋川伊香保IC～東部湯の丸IC＝80km
延長・幅員：L＝5.4km、W＝10.5m (2車線)
- ① 渋川西BP：H16年度～H 年度：L＝5km
 - ② 金井BP：H17年度～H25年度：L＝1km
 - ③ 祖母島箱島BP：H19年度～H28年度：L＝4km
 - ④ ハッ場BP：H7年度～H23年度：L＝9km
 - ⑤ 川島BP：H21年度～H26年度：L＝2km
 - ⑥ 吾妻西BP：H21年度～H28年度：L＝7km

●草津温泉の観光客が増えます！

群馬県を代表する草津温泉の入り込み客数が、整備前の約300万人から約345万人に増加します。

観光客が約4割増！

新鮮野菜食べられる人
600万人増！

●嬭恋高原野菜を即日食べられます！

全国シェア約40%の嬭恋村のキャベツをはじめとする高原野菜を採ったその日に食べられる人が約1,200万人

県土に活力！ 地域の自立と個性を守る道路整備 ～輸送競争力の強化・広域物流を支援する～

高速インターチェンジへのアクセス強化

- 地域産業における物流の効率化・活性化を支援
- 高速インターチェンジへのアクセス性を強化し産業立地の促進を図る
- 高速道路網にアクセスし各都市間の交流・連携を高める



●物流コストの削減、地域産業の活性化！

国道122号八重笠道路の開通により、太田大泉工業団地から太田桐生ICまでの工場出荷時間が10分短縮されます。

30分 → 20分

出荷時間の短縮！

●地域の環境が良くなります！

国道122号八重笠道路の開通によりCO₂の排出量が年間253t削減され地域の環境が改善されます。

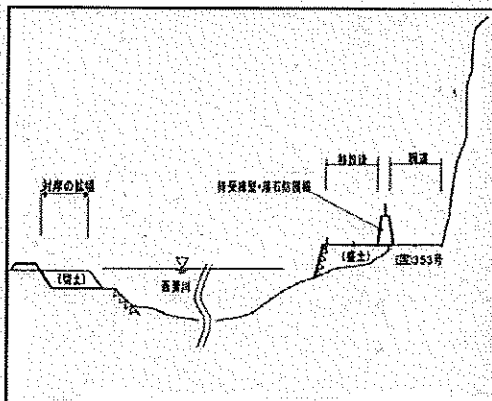
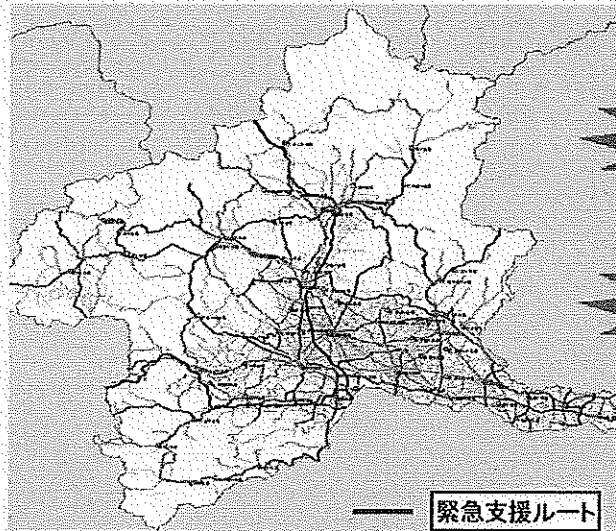
**CO₂削減量(年間)
東京ドーム5個分！**

東京ドーム5個分の森林面積が1年間に吸収する二酸化炭素量に相当します。

安全・安心！ 県民の生活を守り、安心した暮らしを支援する道路整備
～災害に強い道路をつくる～

緊急支援ルート of 危険箇所対策

○災害時でも旧市町村役場等の防災拠点まで円滑な緊急輸送が図れることを目的とした道路が緊急支援ルートであり、このルート上を中心に落石や法面崩壊等の危険箇所について、優先的な対策を実施していきます。



緊急支援ルート上の要対策箇所であり、モルタル吹き付け面の劣化により平成14年、15年と連即して大規模な法面崩壊が発生。
路線名 (国)353号
場所 渋川市村上地内 L=500m
事業期間 H19からH23
全体事業費 850百万

●要対策箇所を150箇所整備します！

県管理道路全体で要対策箇所は1,399箇所あり、その内H19末での対策済み箇所は426箇所です。(進捗率30.5%)

緊急支援ルート上を中心に150箇所の要対策箇所を整備することにより、進捗率を41%に向上します。

●異常気象時の通行止め回数が減少し交通が確保されます！

現在異常気象時通行止め区間が県下で66区間ありますが8区間を緩和します。

安全・安心！ 県民の生活を守り、安心した暮らしを支援する道路整備 ～橋の耐震強化と長寿命化・災害に強い道路をつくる～

位置図

橋梁の計画的な修繕・更新

県管理の橋梁
2,650橋

- 県が管理する橋梁の高齢化が今後急速に進む
- 設計荷重が小さい高齢橋も多い
- 限られた予算で効率的な維持管理を行うため、橋の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の平準化・縮減を図ることが必要
- 『長寿命化修繕計画』に基づく予防的な補修、補強、計画的な架替を実施

建設から約50年が経過した橋の状況



●緊急輸送路の橋梁の耐震化確保

震災後の復旧を支援する緊急輸送路を確保するため、**耐震化率100%** 橋梁の耐震化率100%を目指します。

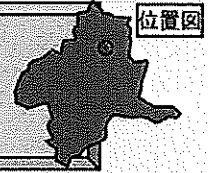
平成21年度までに策定！
長寿命化修繕計画

●橋梁の長寿命化修繕計画を策定

「橋の長寿命化修繕計画」を策定し、個々の橋梁に対して最も効率的・効果的な修繕を計画的に実施します。

安全・安心！ 県民の生活を守り、安心した暮らしを支援する道路整備
 ～1.5車線で生活道の確保・災害に強い道路をつくる～

地域住民の生活道確保
 【県代行事業：村道須賀川御座入線】

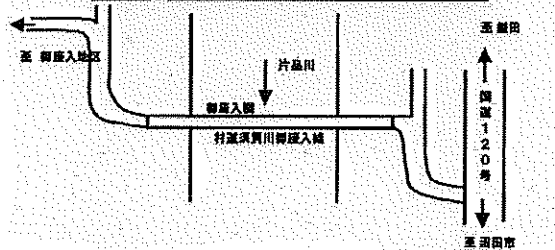
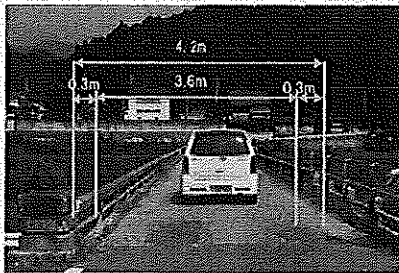


- 過疎・山村地域の基幹道路を代行整備
- 「群馬がはばたくための7つの交通軸」の尾瀬軸へ接続
- 交互交通、歩行者スペース確保で安心確保

市町村支援

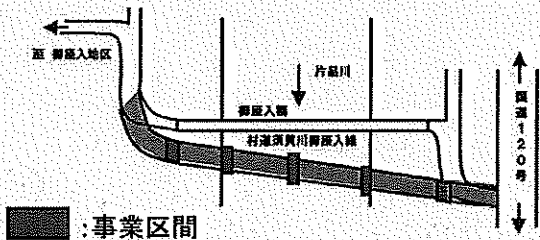
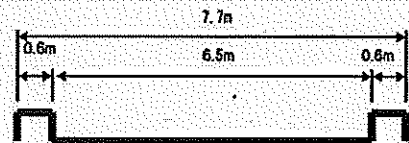
事業前

◆対向車とすれ違いができない状況にありました。



事業後

◆対向車と安心してすれ違える道路になります。



- ・計画延長・幅員：L＝0.2km（うち橋梁L＝116m）、W＝6.5m
- ・事業期間：平成20年度～平成24年度

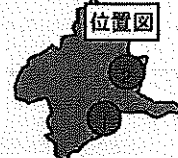
●老朽化した橋の架替えにより、御座入地域と隣接地域の交通強化で58戸の孤立対策となります！

●小学校、中学校がともに対岸にあるため学童が安全に通れるようになります！

魅力・環境！ 環境を保全し、豊かな県民生活を支援する道路整備 ～渋滞を緩和する～

交差点改良

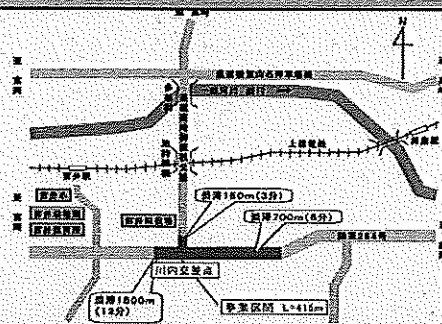
位置図



- 死傷事故が多発している交差点などを整備し、渋滞を緩和し交通事故を減少させる。
- 「日常的に混雑の発生している箇所」 169箇所の混雑緩和・解消
- 県民1人当たりの渋滞損失時間では、全国ワースト11
- 群馬県の人口10万人あたりの交通事故発生件数は、4年連続全国ワースト2位

事業概要

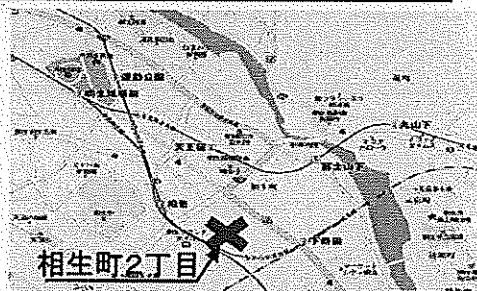
- 国道254号 川内交差点改良
- 延長415m 幅員18m
- 事業期間 平成16年～23年度
- 現在交通量 179台／12時間



最大渋滞長 700m → 300m
通過時間 6分 → 3分

事業概要

- 一般県道阿佐美桐生線 相生町2丁目交差点改良
- 延長640m 幅員16m
- 事業期間 平成18年～22年度
- 現在交通量 9,694台／12時間



【目標】死傷事故率 3割カット
565.4 → 395.8(件／億台・km)

身近な安全対策！



魅力・環境！ 環境を保全し、豊かな県民生活を支援する道路整備 ～環境に配慮する・少子高齢化対策～

サイクリングロードや自転車道の設置

位置図



- 環境への負荷の少なさや健康づくりの観点から自転車利用環境の整備を推進する
- こども（中学生以下）の関係する交通事故の発生件数は、ここ数年は、横ばいであり、歩行中・自転車乗用中が48%であることから通学路を重点的に整備する
- 群馬県内の自転車の保有台数はH18から7万台増え、88万台（H19）に増加している。



サイクリングロード(利根川自転車道)



自転車と歩行者の通行帯を分離

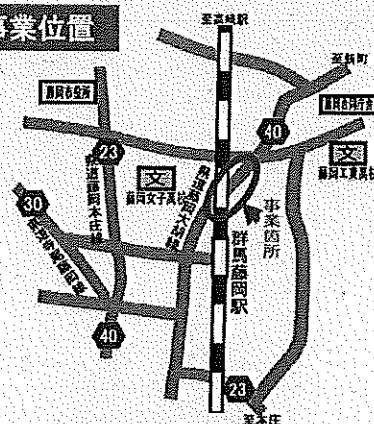


自転車道の設置(安中市道)
接続する県道をモデル地区に指定し実施中

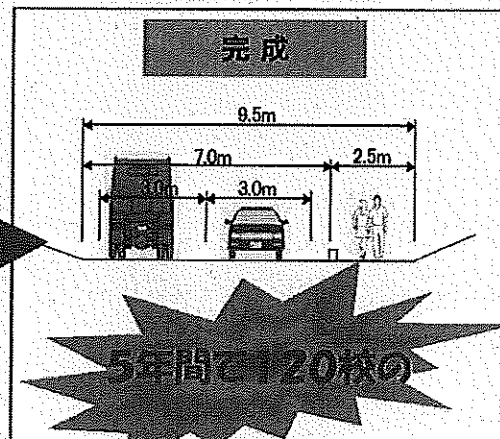
事業概要

- 箇所名:群馬県藤岡市藤岡 藤岡北道踏切
- 事業内容:延長345m 幅9.5m
- 事業期間:平成20年度～平成22年度
- 現在の自動車交通量:8,716台/日
- 歩行者交通量:23人/日(通学路)
- 自転車交通量:122台/日

事業位置



歩道が無く危険な状況



5年間で120校の

歩道と車道を分離

- 通学路の整備により120校の小中学校生徒の歩行の安全性が向上します